

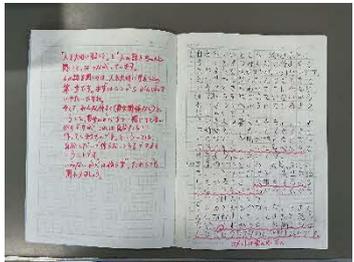
令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立中之町小学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	みんなとつながる「プチ成長ノート」		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像	
児童の実態	取組を通して育てたい児童像
本校の児童は、落ち着いて学習することができているが、学習に集中しにくく支援を必要とする児童もいる。それらの児童は、自己肯定感が低く、人間関係を形成することに苦手さを持っている。	「プチ成長ノート」の取組を通して、児童自身が自らの成長や今後の目標について、担任とやり取りを行うことで、担任と児童、児童相互の良好な人間関係を育むとともに、自己実現に向けた自己肯定感を高めていく。



◆ 取組の具体的内容	
取組を実施する意図及びねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・「プチ成長ノート」を用いて、児童の成長や頑張りを教師が評価し価値づけることで、児童の自己肯定感を高めたり、安心感を保障したりする。 ・「プチ成長ノート」を介して教師が児童の一人ひとりとつながり、よりよい関係性を構築する。 ・「プチ成長ノート」の記述内容を学級内、あるいは校内で紹介・共有して価値づけることで、集団内に「お互いに認め合う、あたたかい空気感」のある、安心安全な風土を醸成する。 	
取組の流れ・創意工夫・児童の変容等	
<p>〈先行実施〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の学年で、担任と児童のつながりを意図して、成長ノートの取組を先行実施した。体育参観日や音楽発表会などの学校行事、学期初めや学期終わりの学年目標に対する個人の目標や振り返り等を成長ノートに書き綴り、担任と交流をした。文章の量の個人差はあるが、担任が児童一人一人の思いを受け止め、児童が言語化できていない部分を教師が解釈するなど丁寧にコメントを記入し返していくことで、授業中や普段の生活の中で、児童と担任のつながりを感じられるようになった。 ・児童から成長ノートを通しての担任への訴えについて、該当児童の了承を得て、学級活動の時間に話し合いを行った。児童から出た問題について話し合うことで、「自分たちの学級は自分たちが作る」という雰囲気が生まれ、当番活動や係活動に主体的に取り組もうとする児童が増えてきた。 <p>〈職員研修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期から先行実施している学年の「プチ成長ノート」の取組を、学校全体として行っている「絆づくり」の取組の1つとして提案し、3学期から全校で取り組むこととした。 ・冬季休業中に生徒指導研修を行い、プチ成長ノートの取組の目的や方法を全体で確認した。 <p>〈全学年で実施〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学期が始まり、児童一人一人に3学期の目標や頑張りたいことなどをプチ成長ノートに書かせ、担任へ提出させた。提出された文章を担任が読み、一人一人に肯定的なコメントを書いて返した。その後、週に1回程度、児童と担任が成長ノートを通じた交流を進めている。 	



◆ 成果 (○) と課題及び今後に向けて (●)
○児童によっては担任からの返事を嬉しそうに読んでいる姿が見られた。また、担任も児童の頑張りの思いを知ることができ、指導に生かすことができています。
●「自分にはいいところがある」(自己肯定感)と答えた児童が、1学期 67.5%から3学期 65.7% (課題のある学年のみ解答) に下がってしまった。先行実施した学年の自己肯定感は全校と比べ 10% 近く低くなっており、数値的には未だ効果は表れていない。プチ成長ノートの取組とともに児童同士のつながり、異学年のつながり、地域とのつながりを充実させ、一人一人のよさを輝かせていきたい。